

# 全国に羽ばたく「大空のまち」へ

## はじめに

三沢市は、青森県の南東部に位置し、東は太平洋、西は面積が全国11番目の小川原湖に接し、冬は北国にありながら降雪量が少なく、晴天の日が多いことが特徴です。また、世界的に重要な湿地としてラムサール条約に登録された「仏沼」をはじめとする豊かな自然に恵まれています。

古くから馬産地として栄えた県南にあって、人々は馬産や漁業に携わっていましたが、太平洋戦争後に旧日本海軍飛行場が米軍三沢基地となり、本市は大きく変貌しました。

現在は、全国有数の航空施設がある大空のまちとして、約4万3000人の人口に加え90000人弱の米軍人、軍属およびその家族が

暮らし、異国情緒漂う国際都市として独自の発展を続けています。それぞれが豊かな表情を持つ三沢市の自然、歴史、文化。

空との深いかわりを物語る「青森県立三沢航空科学館」、国際交流の拠点施設「国際交流教育センター」、近代洋式牧場を開牧した斗南藩士・廣澤安任の紹介と市の特産物を販売する「道の駅みさわ斗南藩記念観光村」、さらには、鬼才・寺山修司の独自世界を紹介する「寺山修司記念館」など、これらのスポットでは「国際文化都市」三沢を実感することができます。

一方、第一次産業の農業では、比較的冷涼な気候に合うことから主に馬鈴薯、にんにく、人参、長いも、作付面積日本一のゴボウなどの根菜類が特産品となっており、水産業では、スルメイカ、ヒラメ、サケ、

ほっき貝などが主な魚種となっています。

また、18歳以下の子どもが3人以上いる世帯に対し、地産地消の推進も兼ねて地元産米を支給し、子育て家庭の支援を行っています。これらの資源を全国に発信するための市民講座「おもてなし大学」を開設し、本市における観光案内などのエキスパートの育成にも力を注いでいます。

## 三沢基地

三沢基地は、昭和17年に三沢海軍飛行場の飛行場として開設され、昭和20年に米陸軍施設工兵隊に接収されたことが始まりとなり、航空自衛隊は、昭和33年に北部航空方面隊司令部が発足し、基地の共同使用を開始しました。

## 国際色豊かなまち

市民と基地内米国人との交流を盛んにするべく、4月には基地内で日本の文化を実演紹介する「ジャパネーデー」、6月には米国の風習、文化、スポーツを市内に向いて紹介する「アメリカンデー」、8月に開催される「三沢まつり」では、日米共同によるみこしパレードを含めて「国際サマーフェスティバル」が開催され、日本人と米国人が一体となった盛り上がりを見せています。



今年も6月に開催された「アメリカンデー」のパレードの模様

また、米国人が基地外にも多く居住していることから、公的な場所などに英語の標識や看板を設置し、住民が暮らしやすいまちづくりを目指すとともに、基地がある地域特性を生かし、全国に先駆けて小学校に英語教育を導入し、人材育成などにも力を注いでいます。

## 人類初の太平洋無着陸横断飛行

昭和6年、米国人飛行家クライド・パングボーンとヒュー・ハーン・ドンの二人は、ミス・ビードル号で本市の淋代海岸を離陸し、飛行時間41時間10分で現在の東ウエナツチ市に胴体着陸し、人類初の太平洋無着陸横断飛行という快挙を成し遂げました。



三沢航空科学館の前に広がる航空公園「三沢市大空ひろば」

当時の飛行機は、太平洋洋を無着陸で横断しようなどということは、無謀ともいえる挑戦でしたが、村民は太平洋無着陸横断飛行の成功を祈り、飛行士の夢実

現のために協力を惜しまず、淋代海岸での滑走路造り、ガソリンの輸送と機体への積み込みや機体の整備、宿泊、食事に至るまで献身的に飛行士を支え、そこには国を超えた村民と飛行士たちの温かい交流がありました。

## 姉妹都市

ミス・ビードル号が太平洋無着陸横断飛行50周年を迎えた昭和56年に、アメリカワシントン州ウエナツチ市と、さらには太平洋無着陸横断飛行70周年目の平成13年には、東ウエナツチ市とも姉妹都市関係を結び、末永い友好を誓い合っています。

また、本市では毎年、中学生を中心とする親善使節団をウエナツチ市・東ウエナツチ市に派遣、両市からも三沢まつりに併せて使節団が来訪し、市民との交流を深めています。

## 歴史的偉業の再現へ

本年は、日本航空史において、初の動力機による公開飛行を実施してから、ちょうど100年目に当たる記念すべき年、「日本の航空

## プロフィール

- ◆面積 120.08km<sup>2</sup>
- ◆人口 4万2172人
- ◆世帯数 1万8396世帯

〔将来都市像〕人とまち みんなで創る 国際文化都市

〔まちの特徴〕太平洋と小川原湖などの豊かな自然に恵まれ、米軍・航空自衛隊・民間航空会社が滑走路を共用する全国でも例を見ない「三沢空港」のある大空のまち

〔特産品〕ゴボウ、長いも、にんにく、イカ、ほっき貝、ほっき井、エアフォース・バーガー、ながいもアイス、ごぼうアイス、ごぼうチップス



三沢市長 種市一正



〔観光〕小川原湖、ミス・ビードル・ビードル号、青森県立三沢航空科学館、寺山修司記念館、道の駅みさわ斗南藩記念観光村

〔イベント〕アメリカンデー、寺山修司記念館フェスティバル、みさわ小川原湖水まつり、みさわ七夕祭り、ファームフェスタin斗南、三沢まつり、みさわ港まつり、三沢基地航空祭、となみウインター・ファンタジー、みさわほっきまつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# 「自然が活きる、人が輝く、 交流のまち」を目指して

## 胎内市の紹介

奥山荘といわれる一つの荘園により発展してきたこの地域は、自然や歴史という財産を共有し、胎内川の恩恵を受け、中世・鎌倉時代の荘園分割から実に800年という悠久の時を経て、平成17年9月に新しい都市「胎内市」として再び一つとなりました。

本市は、東西に細長く、東側には磐梯朝日国立公園区域に含まれる飯豊連峰に、西側には日本海が眺望できる15kmにも及ぶ海岸線に囲まれ、その中央に日本一小さな山脈・櫛形山脈が南北に連なり、東西に流れる飯豊連峰を源とする胎内川を中心として市域が形成されています。その山間部は四季折々の渓谷美が、町部の扇状地には肥よくな優良農地が、海岸線には白砂青松が広がる豊

かな自然に囲まれたまちです。

基幹産業は、優良農地を活かした農業で、コシヒカリを中心にチューリップ、やわ肌ねぎ、葉たばこ、肉用牛を取り入れた複合農業が盛んです。また、昭和30年代の大手企業の進出後、豊富な工業用水を活かし、中核工業団地を造成するなど工業都市としての基盤も確立しています。

さらに、飯豊連峰に続く山地などの自然資源、奥山荘城館遺跡や乙宝寺などの歴史的・文化的資源、宿泊施設やスキー場、各種ものづくり・文化施設が集積したリゾート施設などの観光資源を有する観光都市としても注目を集めています。

また、本市で計画されていた高速道路はすべて開通しましたので、企業誘致や観光客の誘客などで、高速交通体系などの社会基盤の優位性をセールスポイントとしてアピールし

ているところです。

## 将来の目標

私は、これら素晴らしい資源が豊富にあるまちの初代市長として、現在2期目を迎え、まちづくりのかじ取り役として鋭意まい進しています。

また、市の将来像としては、本市が有する地域資源を有効に活用し、後世へ受け継ぎ、行政と市民が手と手を取り合いながら、子どもからお年寄りまでが共に夢を語り合うことができる「元気あるまちづくり」の実現を目指し、主として次のことに取り組んでいます。

## 活力を創出する環境づくり

将来の目標達成に向け、本市が有する「自然資源」、「歴史的・文化的資源」、「観光資源」などの地域資源

を指定管理者に指定して、民間経営のノウハウを導入した新たな「胎内リゾート」が誕生しました。

また、平成19年から、グリーン・ツーリズムを推進するため、「胎内型ツーリズム推進協議会301人会」を設立し、市民と協働による、快適に楽しく生活できるオンリーワンの地域づくりを目標とした農家民泊による体験学習などを行っています。

## ●米粉のまち胎内

新潟県は米の産地として名高い地域であり、その米を使って製粉した「米粉」については、小麦の価格高騰、油の吸収率が低いこと、食料自給率の向上などの点から最近注目を集めています。

本市では、米粉用加工用米について、新規需要米制度による作付けを推進しており、この加工用米を、



ロイヤル胎内パークホテル・胎内アウレツ館

第三セクターで「米粉」の製造・販売を行っていることから、「米粉のまち」として注目を集めています。

## 安全に安心して

## 快適に暮らせる地域づくり

「安全・安心」については、一人でも多くの方が本市に定住し、安全・安心に暮らすことができるよう就任当初より訴え続けてきている言葉であります。しかし、昨今、少子高齢化が進み、若い世代の人たちが都市部へ流出していることから、本市での定住についてが、課題の一つとなっています。

## ●安心できる暮らしのために

その課題を改善するため、市では独自に、特定不妊治療費助成の上乗せ、第3子以降の出生祝金の支給、出生届出時におむつ用ゴミ袋の支給、小学校卒業までの医療費の助成、早朝・延長・休日・0歳児保育の実施、子宮頸がん予防ワクチン接種費用の助成、6カ月・1歳6カ月検診時に絵本を無料配布することなど、若い世代の方が安心して子どもを産み育てることができる環境づくりを積極的に推進しています。

## ●安全な暮らしのために

市内全戸に防災行政無線を整備



胎内市長 吉田和夫

## プロフィール

- ◆ 面積 265.18 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万1991人
- ◆ 世帯数 1万350戸

〔将来都市像〕自然が活きる、人が輝く、交流のまち

〔まちの特徴〕飯豊連峰を源流とする胎内川を中心として形成され、山、川、海の美しい自然と豊かな歴史・文化に育まれたまち

〔市町村合併〕平成17年9月1日、中条町、黒川村の2町村で新設合併  
〔特産品〕米、米粉、やわ肌ねぎ、チュー



リップ、胎内黒豚ハム、胎内高原チーズ、胎内高原ビール  
〔観光〕ロイヤル胎内パークホテル、胎内高原ビール園、胎内自然天文館、胎内昆虫の家、胎内スキー場、長池公園、奥山荘歴史館、乙宝寺、奥胎内ヒュッテ  
〔イベント〕胎内市チューリップフェスティバル、黒川燃水祭、胎内温泉まつり、胎内星まつり、胎内いいもんまつり、胎内スキーカーニバル

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



毎年4月下旬に開催される「胎内市チューリップフェスティバル」

●観光都市のバージョンアップ  
「胎内リゾート」の経営については、合併前より直営による管理運営を行ってきましたが、より効率的、効果的な運営を展開するため、平成19年から3カ年計画でシンクタンクに「胎内リゾート」の現状分析、経営診断、活性化方策などの検討を委託しています。

その成果の一つとして、本年から宿泊施設、スキー場、そば処、釣り堀の管理運営について第三セクター

## 結び

本市では、今後、「市民と行政との協働」をさらに推進し、「自然が活きる、人が輝く、交流のまち」としてパワーアップしていきたいと思っています。  
本市には、まだまだたくさんの方の魅力がありますので、皆さん、ぜひ訪れていただきたいと思っています。

# 市の特徴を生かしながら 元気であり続ける「海老名」を目指して

## 海老名市は

神奈川県ほぼ中央に位置し、都心まで1時間、横浜まで30分と大都市へ至便な立地条件を有しています。南北に長い市域は平地が多いものの東側は緩やかな丘陵地帯で宅地が多く、西側から中央部にかけては、市域西側を流れる相模川の恩恵を受けた肥沃な土地を生かした田園風景が広がっています。

都市と自然との程よいバランスが本市の大きな魅力の一つであり、雄大な相模平野と相模川の織り成す景観、丹沢山塊と大山や富士山の秀峰を間近に望む眺望は秀逸なものとなっています。

また、奈良時代には聖武天皇の詔勅で相模国分寺が建立されるなど、相模国における政治・経済・

文化の中心地として栄えてまいりました。

## 交通利便性が高いまち

本市の最大の魅力といえるのが交通利便性です。鉄道は市内に小田急線・相模鉄道線・JR相模線の3線が乗り入れており、7カ所に9つの駅があります。

また道路は、全国的に有名な海老名SAがあるものの、これまではICが市内になかったため、直接東名高速道路に乗り入れることができず、国道246号線が市域を東西に横断しているのみでした。

しかし本年2月にさがみ縦貫道路(首都圏中央連絡自動車道の一部)の海老名ICが供用開始されたことから、東名高速道路への乗り入れが可能になるとともに、平成24年をめどにさがみ縦貫道路の全線供用開始も

予定されていることから、道路における全国へのアクセス性も飛躍的に向上されることが期待できます。

このように鉄道網と道路網がしっかりと

ありしていることは、市民生活や企業活動において相当大きなメリットがありますので、これを最大限に生かすため、現在、本市の玄関口である海老名駅の自由通路を段階的に整備しているとともに、都市的土地利用が図られていない駅西側においては、民間開発や土地区画整理による新たな土地利用を積極的に進めています。また、市独自の企業立地促進事業を活用し、IC周辺などにも工業系での新たな土地利用を図ることを目指しています。

## 将来を担う子どもたちの環境整備を充実

まちの宝である子どもたちがすく

ら、地域で子どもたちを育てる環境づくりとしても有効なものとなっています。

## 緑があふれ環境が良いまちに

地球温暖化が叫ばれる中、人々が生活していく中で潤いや環境対策の観点から、緑や水などの自然環境は大変貴重なものです。

このため、本市では自然環境をできるだけ維持するとともに緑に対する意識の啓発を目的として、市民一人当たり1本に相当する12万5000本の植樹活動を行う「えびなの森創造事業」を平成20年度から展開しています。また本年からは、木だけではなく花にも視点を当てた試みとして、「花いっぱい運動推進事業」を展開しており、補助制度の創設やコンクールを実施することで、市民団体などによる積極的な花壇整備を推進しています。

さらに市の大きな魅力である田園風景を保持していくための取り組みとして、耕作放棄地や遊休農地などを活用し、市民農園の拡大や菜の花栽培などの取り組みを始めています。なお、将来的には菜の花から収穫した菜種は搾油を行い、給食に利用するとともに、廃油はBDF化



えびなの森創造事業による市民植樹



海老名市長 内野 優

## プロフィール

- ◆ 面積 26・48 km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 12万7345人
- ◆ 世帯数 5万652世帯

〔将来都市像〕「快適に暮らす 魅力あふれるまち 海老名」

〔特産品〕イチゴ、梨、トマト、バラ、カーネーション、スイートピー、吟味豚、いちごわいん、苺酢

〔観光〕相模川、海老名耕地、VIN



A WALK、シネマコンプレックス(2館)、海老名サービスエリア、相模国分寺跡、秋葉山古墳群

〔イベント〕えびな市民まつり、海老名緑化まつり、かかしまつり、えびな彩フェスタ、えびな市民ウォーク、えびな健康マラソン、えびな安全安心フェスティバル

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



段階的に整備している海老名駅の自由通路

すくと育つ環境をしっかりと整備することは私たちの責務であります。

このため本市では県下で先駆けて、平成20年度に小児医療費の無料化対象を所得制限無しで小学生まで引き上げました。また、学校の耐震化工事にもいち早く着手し、平成19年度までに市内19小中学校の全校で実施致しました。現在は学習環境を向上させるため、平成20年〜平成22年までの3カ年で全学校の全教室にエアコンを設置するとともに、これまで臭い・汚い・暗い、いわゆ

です。まずは市民一人一人が元気であることが大事であり、その市民の元気がまちの元気へとつながり、本市が活性化するとともに発展し続けていくことができると思っています。

そのためには私自身が人一倍元気を出さなければいけないと思っており、第4次総合計画で掲げている「快適に暮らす 魅力あふれるまち 海老名」の実現に向け、今後全力で市政運営に傾注してまいります。

# にぎわいのある 田園観光都市を目指して

## はじめに

美作市は、岡山県の北東部に位置し、東を兵庫県、北を鳥取県と接しており、県下最高峰の後山うしろやまがそびえ、剣聖宮本武蔵、少林寺拳法開祖宗道臣の生誕地としても知られています。また、美作三湯の一つで1200年の歴史を誇る湯郷温泉、岡山国際サーキットや、トム・ソーヤ冒険村など、多くの観光資源を有する、緑の山々や清流が美しい、自然豊かなまちです。

しかしながら、近年の過疎化や少子高齢化、また長期的景気低迷などにより、地域の活力は低下しており、こうした環境に対応した、新たな観光振興の取り組みが必要になっていきます。本市の豊富な観光資源を生かし、訪れた人と地域が一体となって感動を体験する機

会を増やして、地域の活性化を促すだけでなく、市民が故郷の素晴らしさや、誇りを再認識する必要があると考えます。

## 市民が主役のまちづくり

本市では、新設市として個性あふれる魅力的なまちづくりを進めていくことを目的として、「ドリームプラン」を策定し、ドリームプラン推進室を設置し、市民との協働の下、地域活性化に取り組んでおります。市民の皆さまに積極的なまちづくりへのご参加をお願いし、市民自らの発案により、地域に隠れた資産の掘り起こしを行っております。

地域が主体の活動として、本年6月に水田アート「ジャイアンツ田んぼ」「トラちゃん田んぼ」の田植えが行われました。トラちゃん田んぼは従来から活動が行われており、多く

の阪神ファンでにぎわっておりますが、野球の伝統の一戦のように、田んぼで巨人阪神戦を表現できたらという企画で、本年は「ジャイアンツ田んぼ」も加え、田んぼで名試合が繰り広げられています。マスコミにも取り上げられ、ホームページへのアクセスの増加、旅行企画会社からはツアーが企画されるなど、予想



田んぼアートとして、毎年阪神ファンに喜ばれている「トラちゃん田んぼ」



読売ジャイアンツのYGマークが浮き上がる「ジャイアンツ田んぼ」

を上回る好反響を呼んでいます。今後はこれを6球団に発展させていきたいと考えており、水田アートの話題と併せた、流入人口の増加に結びつく企画を提案し、本市の魅力を情報発信してまいります。

## 他都市との交流

また、上山地区において、「上山の千枚田」と呼ばれた棚田の豊かな景観を取り戻すため、棚田再生実行委員会を組織し、耕作放棄地の復元に取り組んでおります。他都市からもボランティアとして、多くの方が美作の地に向かい来られ、企業

や各種団体の支援もあり、事業は着実に進展しております。さらに、市外の人材を「地域おこし協力隊」として募集し、現在上山で活動している方がいます。

このほか、平成21年10月に大阪府箕面市に都市農村交流促進施設「彩菜みまさか」がオープン致しました。農産物直売所として、お客さまの来店は順調で、売り上げも伸びております。今後も地域の新鮮で安全な野菜、果物を届け、販路拡大を図るとともに、多くの人に本市の良さを認識していただき、地域イベントに参加していただくなど、他都市との交流を深めてまいります。

## 定住促進・子育て支援

少子化対策については、まず婚活支援策として、市の委嘱で結婚相談員を増やしていき、また結婚をすれば、「バレンタイン住宅」や「キューピットタウン」といった、若い人のための定住施策として、住宅環境の整備を行っております。

本市の子育て支援の目玉としては、義務教育修了までの医療費の無料化ですが、これは市としては県内初の実施でした。子ども手当についても、県下で最初に支給しておりま

す。また、不妊治療の援助も重要と考え、治療費の一部を市が助成しています。妊婦検診にかかる医療費は14回まで市が負担しており、乳幼児の無料検診はもちろんです。赤ちゃんに読み聞かせしていただくブックスタート、会員登録により、育児援助の活動を支援するファミリーサポート事業など、早期から取り組んでまいります。

## 安全安心なまちづくり

さて本市では、平成21年7月には竜巻災害、翌8月には豪雨災害と相次いで厄災に見舞われました。特に豪雨災害は、過去に経験したことのない未曾有の大災害となりましたが、数多くのボランティアの皆さまをはじめ、各種団体からのご支援、また日本全国からお寄せいただいた尊い義援金など、多くの皆さまから勇気と元気をいただき、深く感謝申し上げます。

今もまだ多くのつめ跡が残っておりませんが、今後は災害の検証と、自主防災組織の立ち上げを含め、実効性のある地域防災計画を作成し、市内全域の河川に、監視カメラや水位計、雨量計などを設置し、市民の安全・安心確保のための防

災体制を早急に確立致します。

## 結びに

本年3月には市政施行5周年記念式典を開催致しました。今後も、合併効果が十分発揮できる施策を推進し、さらなる一体感の醸成や、地域の特性を生かしたまちづくり、

市民一人一人が美作の地を誇りに思える「ふるさと美作」を築いていきます。住む人はもとより、訪れる人にとっても魅力ある「にぎわいのある田園観光都市」の実現に向け、市民の皆さまと共に、一歩一歩着実に、未来に向かって、進んでまいります。

## プロフィール

- ◆ 面積 429・19km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万1859人
- ◆ 世帯数 1万2474世帯

〔将来都市像〕人・自然・暮らし輝く元氣なまち。真の豊かさを求める愛の美作市。

〔まちの特徴〕県北東部に位置し、岡山県で最も標高の高い後山がそびえ、水ノ山後山那岐山国定公園に指定されている中国山地が広がる、豊かな山々の緑と、清らかな川の流れの、美しい自然と景観に恵まれたまち

〔市町村合併〕平成17年3月31日、勝田町、大原町、東栗倉村、作東町、美作町、英田町の6町村が合併し、美作市となる



美作市長 安東美孝



〔特産品〕黒大豆、シイタケ、茶、アスパラガス、桃、ブドウ、どぶろく

〔観光〕美作三湯「湯郷温泉」、宮本武蔵生誕地、日本少林寺拳法開祖宗道臣生誕地、長福寺三重の塔、岡山県最高峰「後山」(1345m)、大芦高原温泉「雲海」、バレンタインパーク作東、岡山国際サーキット、現代玩具博物館・オルゴール夢館、トム・ソーヤ冒険村、愛の村パーク

〔イベント〕後山大護摩法要、安養寺会陽、五大力餅会陽、宮本武蔵顕彰剣道全国大会、美作市F1ロードマラソン大会、少林寺拳法まつり、なでしこリーグ公式戦(岡山湯郷ベル)

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。